



国連総会決議 60 / 5 世界道路交通安全の改善

— 「世界交通事故犠牲者記念日」制定と
被害者団体における取り組みの動向—

新 恵 里

総会

国連総会決議

60/5 世界道路交通安全の改善

総会は、2003年5月22日309/57決議、2003年11月5日58/9決議、2004年4月14日289/58決議を想起し、事務総長による世界交通安全危機に関する報告書を考慮し、国連システムの中での交通安全問題に関するコーディネーターであったWHOが、国連地域委員会と密接な協力のもとに活動し、総会の289/59決議実行において果たした役割を称賛する。

また、国連地方委員会とその子機関が、交通安全の取り組みを拡充し促進することにより、上述した決議と国連事務総長の報告書に交通安全の取り組みを拡充・促進することによって、応えたことを称賛する。

事務総長の報告書の中で述べられている、国連道路交通安全対策推進委員会によってもたらされた前進と、関連の国連機関および国際的な協力者による交通安全の先導的試みに対し、満足を持って留意する。

加盟国が『世界道路交通負傷防止に関するワールド・レポート』を交通安全のための努力の枠組みとして使用し続け、その推奨策を5つの危険要因—シートベルトやチャイルド・シートの未使用、飲酒運転、ヘルメット

の未使用、スピードの出しすぎ、インフラの欠如一に対して特別の注意を払うことによって実施することの重要性を強調する。

ヨーロッパ経済委員会が、2007年4月、ジェノバにおいて、ドライバーを含む若年層の道路ユーザーに焦点を置いた、国連グローバル交通安全週間を開くことを歓迎する。

また同じく、交通事故犠牲者と家族の損失・苦痛を認識して、11月の第3日曜日を「世界交通事故犠牲者記念日」とするという提案を歓迎する。

交通安全の責任が、地域、地方、国家の諸レベルに存在するということを確信した。

多くの開発途上国および移行経済にある諸国には、これらの問題に取り組む力が限られていることを認識し、かかる意味において、交通安全の能力を整えようとする発展途上国の努力を支援し、こうした努力と結びついた財政的技術的支援をおこなう国際的協力の重要性を強調し、特に、それらの努力の中には、交通安全の分野と、財政的、技術的援助を行うこと。

1. とりわけ発展途上国においてであるが、交通事故による死者や負傷者が絶え間なく世界的規模で増え続けていることに対する懸念を表明すること。
2. 交通安全の問題に立ち向かっていくことの重要性と、発展途上国のニーズを考慮に入れ、交通安全の領域における能力を構築し発展途上国の努力に対する財政的技術的支援を行うことにより、更に国際協力を強めていくことの重要性を再確認する。
3. 国内外の経済機関を含む加盟国および国際社会が、国連地方委員会、世界保健機構（WHO）、交通安全改善に関係のある他の関係国連機関の交通安全改善に対する取り組みに、適切に、経済的、技術的、政治的援助を行うことを強く奨励する。
4. 国連地方委員会と、関係の国連および国際機関が、すでに存在する交通安全のイニシアティブをとり続け、更に新たなイニシアティブをとることを要請する。

5. 加盟国および国際社会が、1949年に開催された道路交通に関するコンベンション、1968年に開催された道路標識と信号のコンベンションの決定を守り、国内で高いレベルの交通安全を確実なものにし、また Millennium Development Goals を実現するために、交通事故の負傷者や犠牲者を減らす努力をすることを奨励する。
6. 国際的法的な道路交通安全基準の改善の重要性を強調し、この関連で、1968年に開催された道路標識と信号のコンベンションにおいて、苦心してつくりあげられた価値ある一連の改正における、欧州経済委員会、国内交通部の道路交通安全作業委員会の努力を歓迎する。
7. 加盟国が、5つの危険要因—シートベルトやチャイルド・シートの未使用、飲酒運転、ヘルメットの未使用、スピードの出しすぎ、インフラの欠如—の関連も含め、『世界道路交通負傷防止に関するワールド・レポート』での推奨事項を実行することを、強く勧める。
8. また、加盟国が、立法化と法の施行、認識を高めるためのキャンペーンの実行および、監視し、評価するための適切な方法を講じることによって、国家的レベルで、交通安全における指導的機関を設立すること、交通事故負傷を減らすための国のアクションプランを発展させることを要請する。
9. 国連地方委員会とWHOが共同して、もてる資源の範囲でかつ関係する政府・市民社会・民間のステイクホルダーの自発的財政支援で、世界的・地域的、しかし多くは一国的・地方的行動の基盤として奉仕する、交通安全問題への関心を呼び起こし現在の状況に対する適切な反応を起し前進させるための、はじめての国連グローバル交通安全週間を組織すること、および世界交通安全週間の一部となるジェノバでの第二回交通安全関係者フォーラムを2004年に国連本部でもたれた最初のフォーラムで始まった作業を継続するために招集することを要請する。
10. 加盟国と国際社会が、交通事故とその家族について適切に認識を深める日として、毎年11月の第三日曜日を、「世界交通事故犠牲者記念

日」として認識することを要請する。

11. 事務総長が第62回総会において、世界交通安全の発展と改善に関する報告を行うことを要請する。
12. 第62回総会において、「世界交通安全危機」という議題を、暫定的アジェンダとして含めることを決議する。

第38回本会議

2005年10月26日

解説

1. 背景

本決議は、国際連盟の総会における、世界の交通安全に関する決議である。

2004年の世界保健機構（WHO）による報告では、世界中で年間120万人の人々が、交通事故の犠牲者になっており、とくに25歳以下の若者が、世界各地で1千人死亡。15歳～19歳の死因について、交通事故がエイズを上回る死因となっている。

本決議では、加盟国に、『世界道路交通負傷防止に関するワールド・レポート』の継続的使用、発展途上国の努力への財政的、技術的援助の重要性、国連地方委員会、世界保健機構（WHO）、その他関係国連機関の交通安全改善に対する取り組みに援助すること、などが強調、要請されている。

そのなかで、特に、毎年11月の第三日曜日を「世界交通事故犠牲者記念日」（World Day of Remembrance for Road Traffic Victims）として、交通事故の犠牲者を悼み、その家族の苦しみを理解し、交通安全への認識を高める機会とすることが、奨励されている。

この「世界交通事故犠牲者記念日」は、1993年、英国の「ロードピース」（Road Peace）という慈善団体が、世界最初に交通事故犠牲者を追悼する記念行事が行われたことに端を発している。英国では、11月第3土曜日に、戦争や紛争で亡くなった軍人や人々を想起する追悼日とし、犠牲

者やその家族を考える機会としている。「ロードピース」によると、戦争も、交通事故も、ともに犠牲になるのは将来ある若い男性が多く、大きな外傷をもたらす。

その後、1995年には、パース、ケンブリッジ、コベントリー、リーズ、リバプール、ロンドン、ニューキャッスルなどで追悼が行われ、国内30箇所以上に広がった。また同年、ベルギーのリエージュで開催された欧州交通事故犠牲者連盟の総会で、代表らがこの記念日の案に賛同し、この追悼に参加することに合意した。1996年には、オーストリア、ルクセンブルク、オランダなどの被害者団体が記念日に取り組み、ベルギー、ドイツ、イタリア、ポルトガル、スペインなどの国々が後に続き、「欧州交通事故犠牲者記念日」として知られるようになった。1998年以降、欧州に限らず、アルゼンチン、オーストラリア、イスラエル、南アフリカ、トリニダードなどでもとりあげられ、追悼が行われた。そして2004年、国連総会における交通事故危機に関する議論の中で、バングラディッシュ大使が、交通事故の死傷者の犠牲を対象にした、特別な記念日を設けることを要請し、本会議において、国連が、毎年11月第三日曜日を、「世界交通事故犠牲者記念日」とし、すべての加盟国と国際社会に、この記念日を認識することを要請するに至ったのである。

2. 日本での取り組み

わが国において、「世界交通事故犠牲者記念日」の取り組みは、具体的な取り組みとしては、民間団体が推進して取り組んでいる。2007年11月18日には、「交通事故被害者遺族の声を届ける会」や、NPO 法人 KENTO（交通事故を永遠になくす友達の輪）などの民間被害者団体が、街頭での呼びかけやチラシ配布などを行った。これら団体によると、まだ日本において、この記念日の認知度は低く、政府も先導して、この記念日での追悼行事、被害者遺族への理解や支援策の検討、交通事故防止への改革の推進を行ってほしいとのことである。ロードピース、欧州交通事故犠牲者連盟、世界保健機構（WHO）は、これらの追悼記念日を各国で実施するために、「世界交通事故犠牲者記念の日—組織者のための指針」（World Day

of Remembrance for Road Traffic Victims: a guide for organizers) を共同して発行している (この指針は、今井博之氏の翻訳が公開されている (<http://higaisha-no-koe.com/world/WorldDayOfRemembrJPN.pdf>))。

3. 今後の課題

2004年4月、日本の小澤国連大使が、世界道路交通安全危機について、道路交通の状況や交通関連規則、慣行など各国の事情に応じた交通安全施策を各国政府が責任をもって行い、情報交換について加盟国が協力しあうこと、一方で、発展途上国では道路交通安全に取り組む能力が限られており、これらの問題を解決するために、国連がどのような付加価値をつけるかを検討すべきと演説している。

わが国においても、1970年の交通事故死者数は、1万6千人を数え、「交通戦争」といわれたこともあり、その後、法的、技術的、さまざまな面での取り組みがなされてきたが、本決議にある『世界道路交通負傷防止に関するワールド・レポート』で指摘されている5つの危険要因—シートベルトやチャイルド・シートの未使用、飲酒運転、ヘルメットの未使用、スピードの出しすぎ、インフラの欠如—のなかで、飲酒運転などは、悲惨な事故が報道されるなかで、法的措置や社会での本格的な取り組み (飲食店や宴会等での留意など) がなされてきたのは、日本でもごく最近のことである。

一方、WHOの報告では、世界の交通事故の90%は、アジア、アフリカなどの中・低所得国で起こっている。事故の原因も、ヘルメットが高価であることからの着用率の低さ、チャイルドシートがないといった、経済的事情によるものが多く指摘されている。わが国は、IT活用による交通情報システムの整備など、技術開発が進められている。また、2001年に、道路舗装、横断防止策や歩行者用信号機の設置、交通安全教育のために、ネパールに対して約900万ドルの支援を行なった。このようにわが国は経済的にも支援ができる立場にもあり、世界の交通事故防止の取り組みへの期待に応えなければならないであろう。

(参考)

http://www.who.int/violence_injury_prevention/publications/road_traffic/world_report/en/

(付録)

1. 主な交通事故犠牲者の NGO

(出展 : World Day of Remembrance for Road Traffic Victims: a guide for organizers)

Associação de Cidadãos Auto-Mobilizados, Portugal

www.aca-m.org

Association for Safe International Road Travel, United States of America

www.asirt.org

Association nationale des Victims de la Route, Luxembourg

www.avr.lu

Associazione Familiare e Vittime della Strada, Italy

www.vittimestrada.org

Dignitas, Germany

www.dignitas-ev.de

Drive Alive, South Africa

www.drivealive.org.za

European Federation of Traffic Victims, Switzerland

www.fevr.org

Familiares y Victimas de Accidentes de Tránsito, Argentina

www.favat.org.ar

Hellenic Association for Road Traffic Victims Support, Greece

www.efthita.org

Ligue contre la Violence Routière, France

www.violenceroutiere.org

Parents d'Enfants Victimes de la Route, Belgium

www.pevr.be
Prevention De Accidentes de Trafici, Spain
www.pat-apat.org
RoadCross, Switzerland
www.roadcross.ch
RoadPeace, United Kingdom
www.roadpeace.org
Salm and Salimar, Oman
www.salimandsalimah.org/personal.htm
STOP-ACCIDENTES, Spain
www.stopaccidentes.org
Verening Verkeersslachtoffers, Netherlands
www.verkeersslachtoffers.nl
Touth Association for Social Awareness, London
www.yasalebanon.com

2. 世界交通事故犠牲者の日に関する活動を行っている日本の主な団体
交通事故被害者遺族の声を届ける会 <http://higaisha-no-koe.com/>
TAV 交通死被害者の会 <http://tav-net.com/Top.htm>
NPO 法人 KENTO（交通事故を永遠になくす友達の輪） <http://kento.holy.jp/>
全国交通事故遺族の会 <http://www.kik-izoku.com/>